

# 平成 31 年度 極楽苑・香流川 事業計画

## <全体目標>

超高齢化時代を迎え、今後、介護保険をとり巻く状況は大きく変化していきます。2025年にすべての団塊の世代が75歳以上となり、世帯主65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加、保険料負担者である40歳以上人口は2021年をピークに減少するなど、社会保障費や労働人口に大きく影響が出てきます。これからの介護施策において、特に施設ケアにおいては、医療ニーズや看取り対応が求められることから、今年度より、特別養護老人ホーム極楽苑において医療対応型フロアを新規オープンし、24時間看護師常駐によるケアを実施してまいります。

また、地域においては、引き続き「認知症カフェ」「世代間交流」「中学生学習支援」「実習生やボランティアの積極的な受入れ」を行い、開かれた施設作りを目指します。

介護人材に関しては、介護関係職種の有効求人倍率は依然として高い水準にあり、深刻な人材不足に対応する為、総務部を中心に人材確保と定着に向けての取り組みを最優先課題として行ってまいります。また、研修制度の充実や面談など、新たに入職した職員へのサポートを充実させ、早期離職の予防に努めます。昨年度リニューアルした法人全体のホームページを活用し、「見える化」を進めることで、情報をより分かりやすく正確にお伝えしてまいります。

## <各事業目標>

### 極楽苑

#### 特別養護老人ホーム極楽苑

##### ○「安心を感じられる環境作り」

多職種による連携を強化することで、ご入居者の状態変化に迅速な対応ができるよう努めます。また、ご家族とも情報を共有することで信頼関係を深め、安心してサービスを受けていただく事ができるよう、施設の環境作りに取り組みます。

終末期の過ごし方については、これまでの看取り介護の経験を踏まえて、より穏やかに最期の時を迎えていただく事ができるよう、職員体制の強化及び資質向上に努めます。

## **デイサービスセンター極楽苑**

### ○「質の高い個別ケアの提供」

ご利用者の情報を職員間で共有することで、ケアの統一を図り、安心してご利用いただける環境作りに努めます。定期的に事例検討会を開催し、お一人おひとりの残存能力を活かした個別ケアを行うことで、状態維持向上を目指します。

## **極楽苑居宅介護支援事業所**

### ○「在宅介護への不安軽減」

いきいき支援センター等の関係機関と連携を図り、ご利用者に合った適切なサービスの調整を行うことで、在宅介護に対する多くの不安を少しでも軽減できるよう努めてまいります。

### ○「ケアマネジメントの質の向上」

外部研修に参加した後に内部研修を行うことで、事業所全体の能力向上（スキルアップ）を図ります。また、ケース検討会を定期的に行い、アセスメントのデータを活用することで質の向上を目指します。

## **極楽苑訪問介護事業所**

### ○「連携の強化」

認知症の進行、筋力低下など、様々に状態が変化するご利用者に対応していく為、ケアマネジャーや関係機関と連携を密にし、ご利用者ニーズに合ったサービスの提供を目指します。厳しい人員体制ですが、サービスに影響が出ないよう、スタッフ会議の開催や個別の情報収集・発信を徹底し、情報共有と連携強化に努めてまいります。

# 香流川

## 地域密着型特別養護老人ホーム香流川

### ○「職員体制の整備」

職員一人ひとりが一定の知識や技術でケアが行えるよう、各種研修や個別指導を行い、ユニット全体でケアの質向上に努めます。また、介護量の増減に合わせて随時業務分担を見直し、職員が働きやすい職場作りに取り組みます。

### ○「レクリエーションと自立支援」

四季を感じ、生活に良い刺激を与えられる行事や地域への外出を計画いたします。日常的なレクリエーションでは自立支援を意識した活動が増えるよう努めます。

## グループホーム香流川

### ○「認知症ケアの質向上」

理念や目標を職員間で共有する場を定期的に設け、同じ方向性で統一した支援ができるよう努めます。また、認知症で介護が難しいご入居者でも安心して生活できるよう、認知症ケアに重点を置いた研修を計画し、困難な状況が続く時の職員のストレス軽減にも取り組みます。

### ○「心身機能の向上につながる取り組み」

認知機能の低下を予防するために、回想法を取り入れたレクリエーションを実施します。また、口腔体操やリハビリ体操を毎日実施することで、生活機能全般が向上するよう支援いたします。

## 小規模多機能ホーム香流川

### ○「介護技術と判断力の向上」

介護技術向上のため各種研修とミーティングでの知識や情報共有を行い、職員一人ひとりが自ら考え行動できるチーム作りに取り組みます。

### ○「ご利用者のニーズとサービスの調整」

通所を中心にニーズに合わせて訪問や宿泊サービスを組み合わせ、ご利用者が自宅で安心して生活できるよう支援いたします。また、登録者全体でサービス量を調整し、均衡を保つことで、小規模多機能特有の柔軟な対応の実現を目指します。